

第 1 1 回津別町市街地総合再生基本計画推進協議会 会議録

1. 開会

事務局：【欠席者の報告】増田委員、岡本委員、中村委員、福井委員が欠席。木内委員が遅れて参加。ちびっこクラブについては代表変更に伴い委員を再度選任中。

2. 会長挨拶

3. 前回会議録の確認

－異議なし、承認－

4. 【協議事項】①これまでの協議を反映させた計画案について

－事務局より説明－

委員：北海道新聞折り込みのかわら版にて本事業における民地取得がうまくいっていないと載っていた。民地が取得できなければ事業を進めていくことはできないと考えるが、現状はどうなっているのか。

事務局：3件のうち2件は前年度内に売買契約済みである。残る1件についてはご本人とコンタクトをとっており、本日、電話で「売ることを約束する」と確約が取れたことから取得できる見込みである。

5. 【協議事項】②前回までの協議会で出された意見・アイデア等について

－事務局よりアイデア、今後のスケジュール等について説明－

－アドバイザーより事例や今後目指すべき姿について提案－

委員：道の駅を目指すとなると国土交通省の登録手続きを行うのか。そうであれば整備する施設が道の駅の要件を満たしているのか。

事務局：24時間開放のトイレが必要となり、他施設でよくあるのがトイレだけを別棟で設けるパターンである。今回のワークショップは、道の駅を目指すことによるメリットについての提言か。施設オープン時に道の駅として稼働することは難しいが、ゆくゆくそのような整備を行うことを含めた方向性について議論するワークショップとなる。

委員：道の駅には、国土交通省が町と連携して整備するものと、町が単独で整備して登録するものの2つがある。防災機能を持つ必要があり、広い面積も必要となる。道の駅あいおいとの関連もある。そのあたりを現実的に考えるとどうだろうか。

6. 【協議事項】③ワークショップ（「持続可能な運営について掘り下げ」、「各施設（機能）が相互に連携する具体的仕組み」

－会長よりワークショップの進め方やタイムテーブル等を説明－

ー 2 班に分かれてワークショップを実施し、結果について各班より報告ー

- A 班：持続可能を妨げるリスクとはなんだろうかと考えた。現状、町外で買い物をする若者が多いが、理由は「買いにくい」と「品揃え」である。買い物客を増やさなければならない。経営者の持続可能性の問題もある。例えば後継者がいなくなったらどう運営していくのか。皆で新たな経営体も含めて考えなければならない。人口が減るのでマーケットは小さくなっていく中で、道の駅というのは外から人を呼ぶので商圈を広げることにつながる。国土交通省の位置づける道の駅にこだわる必要はない。勝手に道の駅のように位置付けて産直の商品などを販売すればよい。町外在住者が多く買いに来れば、町内在住の若者も買い物をしやすくなる。買い物客を増やす打開策になるのではないか。もしそうなれば色々な連携が生まれる。町内の地場産品にこだわらず、近隣市町村の特産品を取り扱う方法もある。今回立ち上げようとしている運営検討委員会は、協議会メンバーだけでなくスーパーマーケット経営者も入ってもらうことが重要ではないか。スーパー経営者目線で「できること」「できないこと」は外の人ではわからない。必要だができないことについてはどうすれば実現できるのか考えるためにもスーパーマーケット経営者に入ってもらう。農と商の連携も重要で、ここを繋げるためにも聞き取りや中に入ってもらうことも必要。若者が買い物客となるためには、丸玉木材(株)の若い社員などに聞き取りをしてアイデアを考えることもできる。
- B 班：運営者の位置づけについて疑問があがった。敷地を有効活用して運営を検討しても足りないのではないかと。足りなければキッチンカーなども考えられるが。施設管理と運営管理があるが、お金の話はこれまで出てきておらず、今後は誰がいつどこで議論していくのか。そこが見えていない。道の駅そのものではなく、道の駅のような場所を目指していけばよいのではないかと。道の駅そのものを目指すとハード的な話などが出てくる。本当に道の駅になった場合には図書館の開館時間やスーパーマーケットの営業時間などの問題もある。来館しても買い物や食事ができないとマイナスなイメージが広がってしまう。正式な道の駅というよりも地域の特産品が手に入ったり、魅力発信の場であったりというのが重要。アンテナショップのあるさんさん館とどのように連携していくのかというのも話題にのぼっていた。

ーワークショップ結果発表の総括と「運営検討委員会」の設置についてー

- 会長：運営検討委員会とは誰が何をやる場なのかという議論になっていた。また、共通して道の駅のような要素を組み込むことについても議論されていた。色々な意味で持続可能な方法や機能があると思うので、うまく連携するにはどうしたらよいか仕組みを考えていただくワークショップであった。金銭的なマネジメントの部分も出ており、実際に施設の運営管理者などについても収入面や町の関わり方など見える化していかなければならない。本協議会の分科会のような形で運営検討委員会を立ち上げたいが、経営者抜きの委員だけで何を話すことができるのかという意見もあった。経営者も入れて具体的な議論をしなければ町民にとって利用しやすい施設にな

らない。運営検討委員会はそのための組織で、誰が何をどうしていくのか明確にしていかなければならない。運営検討委員会は必要だということで協議会として決定してよろしいか。

委員：運営検討委員会の立ち上げについては議会との協議は終わっているか。予算がどうなっているかは不明だが、その辺りも含めて整理した上での提案か。組織の位置づけなども整理をしてもらわなければ簡単に承諾できない。

会長：皆さんの賛同を得た中で運営検討委員会に参加いただき、管理運営面について、より具体的な議論を展開していただくイメージだが。

事務局：別組織というよりは運営検討のために特化した協議会内部のグループという位置づけである。組成の狙いは大人数よりも少人数の方が機動性は良くなるため。A班ではスーパーマーケットの経営者に入ってもらってはという意見もあった。運営面に集中して話すような組織としたい。あくまでも協議会内で運営面の協議に特化したグループと認識いただきたい。

委員：簡単なものではなく、運営検討しなければ持続可能な運営ができない。施設運営を町民の購買で支えなければならない。調査によると町民の7割ほどが町外に買い物に行っている。残り3割を取り合っても仕方がない。自治会の中で聞いているのはコープさっぽろがトドック会員の営業に歩いている。そういう状況の中で商いの圏域は狭くなっている。その中で運営検討委員に選ばれた人は大変である。もう少し丁寧に配慮を持って議論しなければ。また、データが無さすぎる。トドックの会員数は町で把握しているか。そういった分析をしなければ持続可能な運営はできない。新たな施設で商売していく経営者の事業収支計画なども聞いていない。簡単に承諾できるものではない。

会長：協議会の全委員がどのような方向性、経営の在り方など具体的な部分を見ながら話すべき内容。どこまでを協議会で具体的に提案するのか議論されていなかった。単純に分科会を作れば良いというものではない。具体的な話をするということは責任が伴うこと。その責任の所在についても整理が必要。運営検討委員会については議論、整理していきたい。運営者や経営者などの当事者に対して、また、運営者の公募内容などについて運営検討委員会にて整理して提議することで少しずつ実現を目指していくような捉え方でいかがだろうか。現実的な議論を行う場ではないのでは。

委員：会長の言うことも理解する。テナント導入委託調査業務を町が委託している。その調査結果についても協議会で経営方針等については報告いただくべきである。その辺りも把握せずに運営検討委員に選ばれると大変である。

会長：調査内容等、協議会内で共有できていなかった。会長としては運営検討委員会を立ち上げていきたいと考えている。もう少し事務局と協議したい。

事務局：そこまで仰る気持ちもわかるが、責任を押し付けることはしない。求めているのは皆さんの考えを結集して答申できればというところ。決して案を出してうまくいかなかったからといって責任を持たせるということはない。あまり肩肘張らずに参加

していただければと思う。今日のグループワークでも意見が多数出ているが、テーマを絞ってワークショップの回数をこなしていきたい。

委員：色々な意見があるが、運営検討委員会の中で本質的な話をしていくと協議会と同じような議論になってしまうだろう。道の駅のような施設を目指すということもあり、楽しい前向きな意見を出す場としての実施が必要ではないか。

委員：津別町市街地総合再生基本計画推進協議会設置条例の第4条で、「委員の任期は、計画に定めるコミュニティ整備地区の設計が完了する日までとする。」と定められているが、どういう意味か。当初はドラッグストアも含めたプロポーザルを行い、一体整備を行う予定であったが、現在でもドラッグストア棟の設計が終わるまでという意味合いか。それとも現在議論しているコミュニティ棟の基本・実施設計が終わったら終了か。そこも含めて議会とすり合わせが必要ではないかと意見した。

事務局：ドラッグストア棟の設計についてはまだ着手しておらず、コミュニティ棟の基本・実施設計が完了したから終了とはならない。

会長：ドラッグストア棟の整備について、コミュニティ棟との連携等も含めた内容のすり合わせも推進協議会が機能することとなる。運営検討委員会の在り方や議論内容、どう反映されるかという部分を説明しきれていない。この場で結論が出ると思っではおらず、どのような組織としていくのか持ち帰って検討したい。

委員：協議会としての議論は出尽くしている状況だと思う。アドバイザーから濃縮したプレゼンを短時間で受け、頭が混乱している。新しい人として若者や多方面の意見が必要で、それが協議会委員だけでは見えていない部分の議論などを含めて目指すべき部分に近づくと考えるので必要だと判断している。

会長：協議会とは別の組織を新たに作るという形で進めていく方が良いか。

委員：若者がたくさん集まって運営検討委員会を組成して、議論した方が良いのでは。なので議会とのすり合わせが必要。推進協議会と別に作るのであれば、設置条例なども必要となる。

会長：それを事務局としては推進協議会の分科会として作ってはどうかという提案であった。新たに条例を定めて運営検討委員会を立ち上げ、若者を委員として指名すべきという意見もごもつともである。

事務局：方法として、推進協議会を母体に運営検討を専属で議論するグループとして運営検討委員会を立ち上げ、その中に若者等を招集して会議を開催するのも一つの方法かと思う。時には若者団体や企業などに出向いて意見を収集することも実施していきたいと考えている。

会長：ポイントとなるのは、推進協議会委員以外も入ってもらってソフトな議論をすべきという点か。それを推進協議会として方向性の見定めや実現に向けた進め方か。この場で結論は出ないが、そのような運営検討委員会を立ち上げて次回の推進協議会でどのようなアイデア、企画、話し合いがなされたのかを報告し、推進協議会としてその手について確認しながら、実際の運営者や管理者等にどうやって伝えていくのかを答申する形でいかがだろうか。

委員：推進協議会委員は団体推薦で来ている。今は良いが将来どうなるのか。津別町は過疎化が進んでいく町であり、10年間で1,200人ほど減る見込みである。若者が津別町を背負っていく覚悟が必要。そのためにも若者30グループくらい集めて議論した方が良い。

7. 今後のスケジュールについて

事務局：運営検討委員会については、事務局より各委員に連絡して募る形としたい。各委員からいただいた意見も含めて、運営検討委員で集まって進めていきたい。次回開催は7月下旬としているが、運営検討委員会からの中間報告等ができるタイミングでの次回協議会開催としたい。開催については改めてご案内する。

以上